

みんなの健康ラジオ

『子宮頸がんワクチン』

(2022年5月19日放送)

横浜市産婦人科医会

(医)善方会よしかた産婦人科

井畑 穰

日本での子宮頸がんワクチンの流れ

2013年4月 定期接種 「積極的接種勧奨」

2013年6月 接種勧奨の一時差し控え

→この結果、接種率が72%から1%以下に
そして、現在まで「一時差し控え」が継続していた

2022年4月から、再び「積極的接種勧奨」へ

2022年4月から、差し控えにより接種機会を失った
1997年度から2005年度生まれの女性（9学年）に対し
2025年3月末までの無償接種期間を設けることが決定

子宮頸がんワクチンの副反応は？

- 軽度なものは、痛みや腫れなどですぐに軽快する
- 重度なものは、アナフィラキシーショック（強いアレルギー反応）、ギランバレー症候群（手足の神経障害）、急性散在性脳脊髄炎（ADEM：脳や脊髄の神経の炎症）複合性局所疼痛症候群（CRPS：慢性の神経障害背疼痛）
- ADEMはウイルス感染やワクチン接種後に起こるが、HPVワクチンに特有ではなく、確率は100万人に1人以下
- CRPSは、HPVワクチン接種者800万人中3人確認されている。現在の病状については公表されていないが、改善したという報道があった。これも、HPVワクチン特有のものではなく、外傷や注射などで起きる。
- WHOや日本以外のほぼすべての国が、HPVワクチンは安全なワクチンであると結論づけている

まとめ

- 子宮頸がんワクチンは、**100%**安全なワクチンではなく、何百万人に**1人**くらいは重い副作用が出現する。
- 重い副作用は、子宮頸がんワクチンに特有のものではなく、他のワクチンでも起こりうる。
- 子宮頸がんウイルスの感染は、基本的に性交渉のみ（口腔性交なども含む）である。したがって、男女とも生涯パートナーが変わらないのであれば、感染機会はない。
- 乳がんや大腸がんにくらべると、罹患率は約**10分の1**以下である子宮頸がんに対して、どこまで予防すべきかについては、個々の人の考え方による。
- できればワクチンを受ける本人の意志をきちんと確認して、ワクチン接種を奨めるべきであろう。